



はいのたね



~ 井上病院での取り組み・熱中症について ~

災害時の医療対策について研修を行っています！

災害時に病院に求められる役割である、安全の確保や医療の提供などをスムーズに行えるよう、災害医療マニュアルを作成し研修を行っています。



私たちの研修や活動が地域の安心・安全な生活や地域貢献につながることを目指しています。患者さまを守り、また地域の方々を守るため、病院職員が一丸となって対応します。



第3回 美化活動

職員の声から美化活動が始まり、今年で3回目。今年6月9日、23日の朝に行いました。

患者さんに気持ちよくなってもらえるように、職員も気持ちよく患者さんに接することができるように、心をこめて美化活動中です！



7月15日で開院17年目を迎えます

2002年7月15日に井上クリニックとして開業して以来、16年が経ち、職員の人数も徐々に増え、2008年9月1日より井上病院としてやって参りました。

開院時より、安全で患者さんにやさしい医療を心掛けて参りました。今後も各科連携し、職員一丸となり、尊重しあいながら、患者さんを支えていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

院長 井上 文之



新任職員紹介

太田 看護師

慣れない業務を覚えることで精一杯の毎日ですが、先輩方に教えていただきながら一日一日学ぶことで自分の知識や技術を身につけ、看護に活かせるように努力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

寺尾 看護補助者（看護学生）

病院での勤務は初めてで、まだ分からないこともありますが、患者さんに笑顔で接しサポートができるよう、一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。

熱中症に気を付けて！

平成 29 年の 5 月から 9 月において、熱中症による救急搬送は約 5 万 3000 人、うち 48 人は熱中症により死亡されています。熱中症患者のうち約半数は高齢者のため注意が必要です。(消防庁の調査より)

熱中症とは、温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウムなど）のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどい時にはけいれんや意識の異常など、様々な障害を起こす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので注意が必要です。熱中症を予防して元気な夏を過ごしましょう！

熱中症予防のポイント

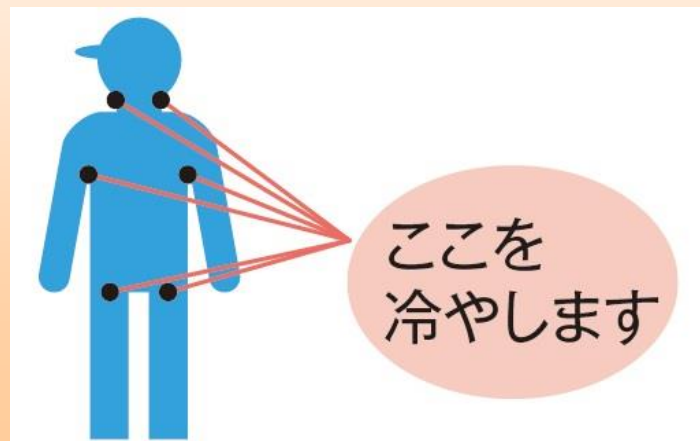
- 室温 28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使ってください。
- のどが渇かなくても、こまめに水分補給をしてください。
- 外出の際は体をしめつけない涼しい服装で、日よけ対策もしっかりと。
- 無理をせず、適度に休憩をとりましょう。
- 日頃から栄養バランスの良い食事と体力づくりを。



熱中症の応急手当

- + 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる。
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす。
- + 首のまわり・脇の下・太もものつけねなど太い血管の部分を冷やす。
- + 飲めるようであれば、水分をこまめに取ってもらう。
- + 40℃前後の高熱が見られる場合、救急車を呼び、体を冷やす。

※ 熱中症による高体温がその日のうちにおさまったとしても、体の抵抗力は下がっており、熱中症にかかりやすい状態にあります。翌日の活動には気を付けてください。



困ったときは…

消防庁作成の **全国版救急受診アプリ「Q助」**

ウェブ版もあります！



質問に答えると症状の緊急度を素早く判定してくれ、救急車を呼ぶ目安になります。

該当する症状を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が表示されます。

例：「今すぐ救急車を呼びましょう」
 「できるだけ早めに医療機関を受診しましょう」
 「緊急ではないですが医療機関を受診しましょう」
 「引き続き、注意して様子みてください」

その後、医療機関の検索や、受診手段の検索を行うことができます。ぜひお役立てください。

熱中症対処・判断チャート

